

「星…綺麗だな…」

今夜は流星群が活動している日だ。

僕は部屋の窓からぼんやりと夜空を眺めていた。

流星が落ちていくのが何度か見える。

「よし…!!」

次に見えた瞬間、僕は祈った。

「可愛い彼女ができますように…」

年齢⇨彼女いない歴…

こんな僕にも彼女なんてできるのか…?

大学生になり人生初の独り暮らしを始め、

昔の友人や家族に会えない日々が続き、

少し寂しくなっていた…。

……次の日。

いつものようにバイトを終え、家に帰る途中、地面にふわふわした白い塊が落ちていたのが、視界に入った。目を凝らしてよく見てみると、白い毛の子うさぎだ。

「……ん？こんなところにうさぎ？野生では無さそうだし……捨てられたのかな……」

恐る恐る頭を撫でてみる。

しつとりとした毛並みでとても撫で心地が良い。



大人しいからなのか、人間に慣れているからなのか、触ってもあまり抵抗しない。人懐っこい瞳で寂しそうに僕を見つめている。

「……君は帰る場所がないの？」

車が通ったら危ないし、飼われていて捨てられたんだとしたら外の世界に慣れていないかも知れない……。

僕はこのうさぎを家に連れて帰ることにした。

「今日も疲れたなあ……」

誰も居ない我が家に帰宅し、
一息ついてソファにうさぎを座らせた。

実家で犬を飼っていたけど、
うさぎを飼ったことは一度もない。

「ケージとか必要なのか？
餌は…野菜とか？」

パソコンを起動して、
うさぎの飼い方を調べていた。



そうこうして目を離している隙に、ソファに座らせていたうさぎが居なくなっている。

「……どこに行っただ：：？
それほど広くないマンションの一室だが、
小さな子うさぎを探すには大変だ。」

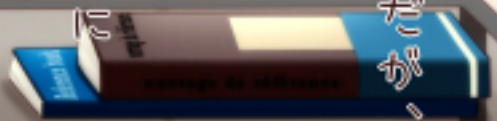
「おーい。」

ソファと壁の隙間やテレビの裏を探していると、真夜中の静かな部屋でドアを開ける音が響き渡る。

「……ガチャリ。」

「!?」
1人暮らしのマンションだ。
聞き慣れた筈の生活音を誰かが立てた事に、
息を呑んだ。

「……まさか、泥棒？
そう思うと怖くて身動きが取れなかった。」



ドアを開いたのは何も着ていない女の子だった。
……あまりにも驚愕し、声が出せずにいた。

あの……初めまして……



信じてもらえないかも知れないけど、
私はさっきのうさぎです。
助けてくれてありがとうございます……。

う……うさ耳でスッポンポンの
女の子が……喋ってる……

さっき拾ったうたぎのことを知ってるし
泥棒ではない……？……夢？それが
疲れて幻覚を見てるのか僕は……。

……凶器とか持ってないよね？



も、持ってません。この通り裸ですし……

確かに……。でもこのままだと誰かに見つ
かったら逆に僕が不審者に思われてしまっ
つ

と……とりあえず服持ってくるから……

服ありがとうございます。えへへ…ぶかぶか。

ほんとだ…。に、似合ってるよ
////

150センチも無さそうだな。というか服着た
ところで見えちゃってるんですが…
////



あの…実は私、地球人ではありません。

えっと…うさぎでもなく地球人でもないの？

……何を言ってるのかよくわからないけど
黙って話を聞くことにしよう。これは夢なんだ。
だから理解できなくても仕方ない。
頬をつちってみるが、確かな痛みがある。

…にしても…改めて見ると凄く可愛いし
幼い割におっぱいもめちゃくちや大きい…

////

もこ
もこ…

現実か夢かわからないが、こんな好みの子と
二人きりで話す機会なんて早々ないよな。

こんな小さい子だしもし何か
あってもなんとかなるよな…立ち話
しても余計落ち着かないし…

…あのさ、そこで話すのも
なんだしこっちに座ってよ。

あ、ありがとうございます

////

…この状況、逆に楽しんだ方がいいのかも
知れないな。そもそも夢かも知れないし…。
とりあえず部屋の中に誘導することにしました。

……まだ今の状況に頭が追いつかなくて色々信じ難いけど……とりあえず話を聞かせてっ

はい。私はメルヴェエという星から来ました。

今メルヴェエでは、地球が人気で特に主のお気に入りなんです。主は、さっきのように別の姿に変えたり特殊な能力が使えます。

そして貴方のように優しい人の願いを叶えるのが、最近の主の趣味なんです。

ポフニッ

優しい……？

兎のことを考えて行動されてましたから。
そして恩を受けたら私は貴方の
恋人になるよう命じられました。////

こ、恋人……!?! ////

ドキ
ドキ

…昨晚流れ星に祈ったんですよね♥

そ、そうだ……。可愛い彼女が
できますように。って
祈ったんだっただな…… ////



…僕の思い描いていた恋人像そのものだ。
その辺のアイドルより可愛いと思うけど
僕には全然似合わないな…

：そうだ。こちらでの私の
名付け親になって下さい
////

名前…：さつき兔に付けようと
思ってた名前なら「つな」だけど
////

つな？美味しそうで
かわいいですね ♡



私はなんて呼べばいいですか？
…お兄ちゃんとか？

お、お兄ちゃん!?!

僕が「妹萌え」なのを知ってるのか? /// っ
というか僕のことをどれだけ知ってるんだ…

えへ…そのうち慣れますよ♥

そういうもの? (笑)あの子、敬語じゃなくて
いいよ。…恋人同士で敬語って変だし ///

そうだね。じゃあ早速タ×語にするね ///

これからよろしくね、お兄ちゃん♥

にゅにゅ

こちらこそよろしく…。
////

不思議な形でついに僕にも彼女ができた…!!
まだ色々と聞きたいこともあるけど…
追々確認していくとするか。



あのね、さっきからずっと気になってたんだけど
...その...おちんちん、膨らんでるよ...
////

もい...

あ...っ!?!?!っ!?!?!めっ!!

体はなんて素直なんだ...
////



あのさ…彼女なんだし…、
その…お手伝いしてあげたいな
♥

そ!?! え…で、でも…
そんな、悪いよう
////

ドキドキ♥

ドキドキ♥

いつ、いきなり童貞卒業!?というか
見かけによらず大胆だな…
////

ドキドキ♡

ドキドキ♡

あのさ…彼女なんだし…
その…お手伝いしてあげたいな♡

そ!?!
え…で、でも…
な、悪いよう
し

いつ、いきなり童貞か…!?というか
見かけによ…
////

続きは製品版にてお楽しみ下さい!
※体験版の画像サイズは600×450pixel
製品版は1600×1200pixelです。